

北海道浮魚ニュース

平成 25 (2013) 年度 3 号

2013 年 5 月 27 日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

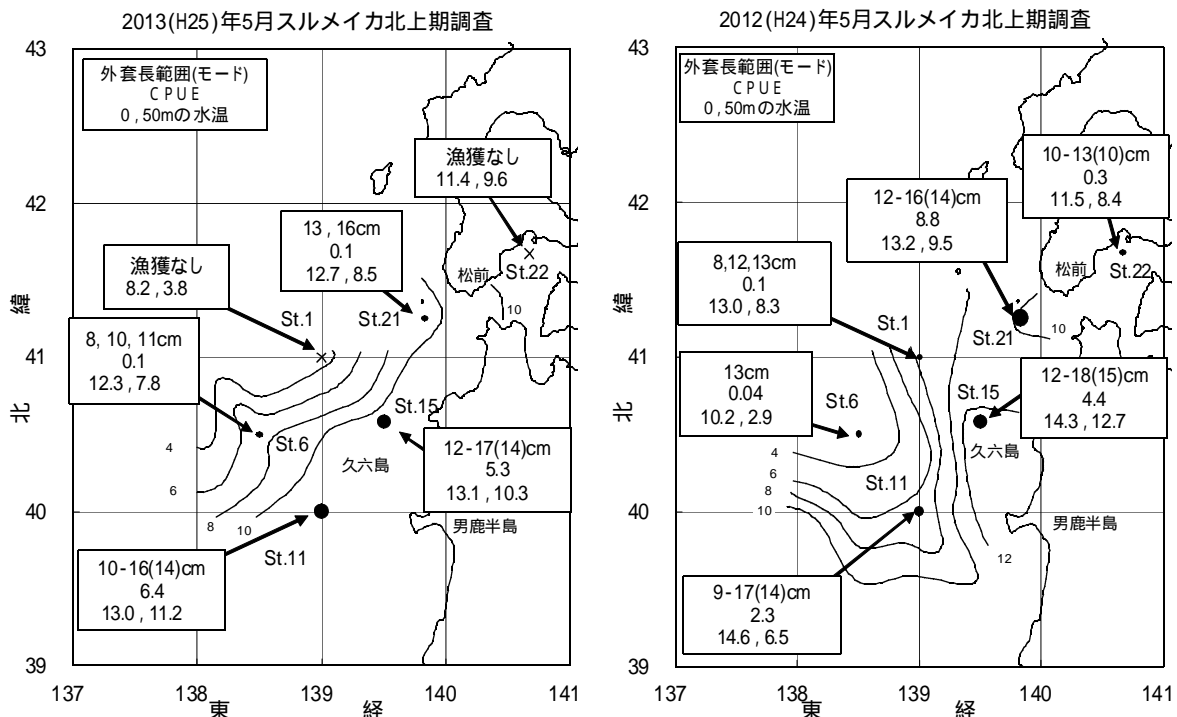
日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 17 日 ~ 24 日の期間、北海道松前沖から秋田県沖にかけての日本海と函館沖で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

調査海域のスルメイカ分布密度は昨年を下回った。漁期開始直後の漁獲は 2001 年以降では低い水準に止まると予想される。魚体サイズは昨年より大きく過去 5 年平均並み。

1. 水温分布 (図 1)

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温分布は、調査海域の南側にあたる秋田沖日本海では 10 以上の比較的水温の高い海域が沿岸寄りに広がり、6 以下の低水温の海域は昨年に比べ沖側の狭い範囲にのみ見られました。逆に、調査海域の北側にあたる津軽半島西沖から北海道松前沖にかけての日本海では、水温 10 以上の海域は沿岸近くの狭い範囲に限られ、6 以下の低水温の海域が昨年に比べ沿岸寄りまで広がっていました。



漁獲調査点 6 点の表面水温は 8.2 ~ 13.1 (昨年 10.2 ~ 14.3)、水深 50 m の水温は 3.8 ~ 11.2 (昨年 2.9 ~ 12.7) の範囲にありました。

2 . 分布密度 (図 1、図 2)

松前沖 St.21 以南の漁獲調査点 5 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0 ~ 6.4 (昨年 0.04 ~ 8.8) の範囲にあり、最も CPUE が高かったのは男鹿半島沖の St.11 (CPUE 6.4) でした。全体として CPUE は北側と沖側の調査点で低くなっていました。

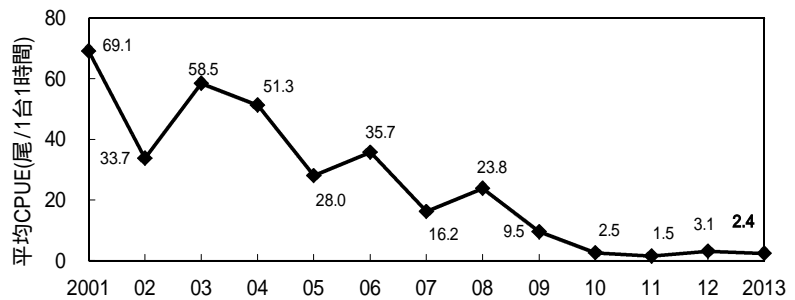


図 2 松前以南 5 地点の平均 CPUE の経年変化 (2001 年以降)

St.21 以南の 5 地点の平均 CPUE は 2.4 で昨年 (3.1) を下回り、2001 年以降では 2011 年に次ぐ低い値でした。道南海域への来遊の目安となる松前沖 St.21 の CPUE は 0.1 (昨年 8.8) と 2001 年以降で最も低く、函館沖 St.22 (昨年 CPUE 0.3) でも漁獲がなかったことから、北海道周辺には魚群がまだ到達していないと考えられ、6 月の漁期開始直後の漁獲は、2001 年以降では低い水準に止まることが予想されます。ただし今年度の日本海全体の来遊量は平年並みと予想されており (浮魚ニュース 2013 年度 2 号)、北上群の来遊に伴って漁獲は上向くと考えられます。

3 . スルメイカの大きさ

調査海域全体のスルメイカ外套長 (胴長) の範囲は 8 ~ 17cm (昨年 8 ~ 18cm) でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ (モード) は 14cm (昨年 13cm) で、全体的な魚体サイズは昨年より大きく過去 5 年平均並みでした (図 3)。各調査点のモードの範囲は 8 ~ 15cm (昨年 8 ~ 15cm) にありました (図 1)。

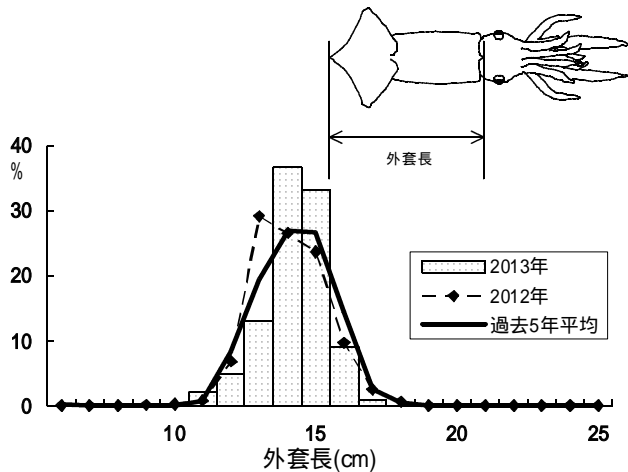


図 3 調査海域全体の外套長組成